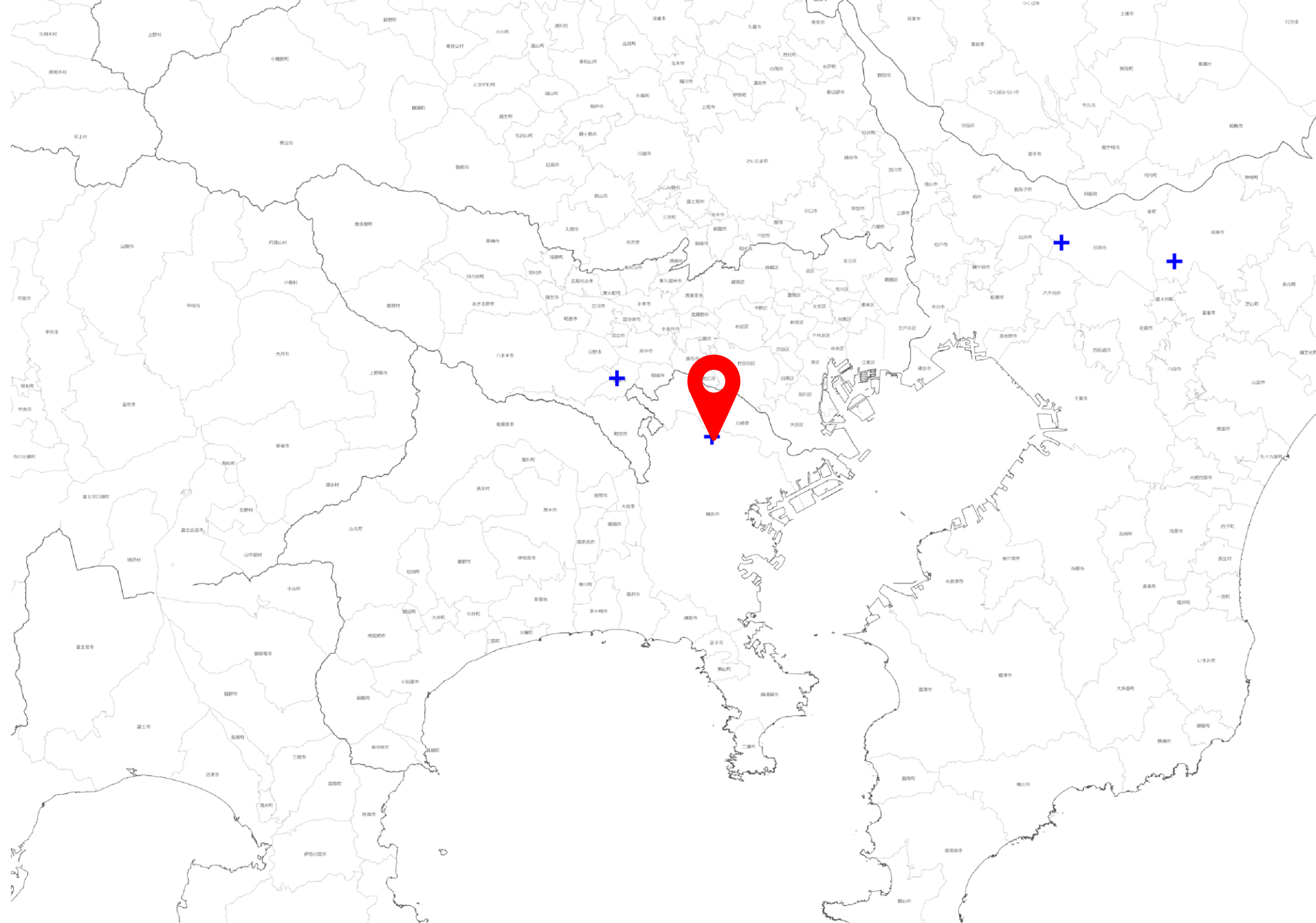


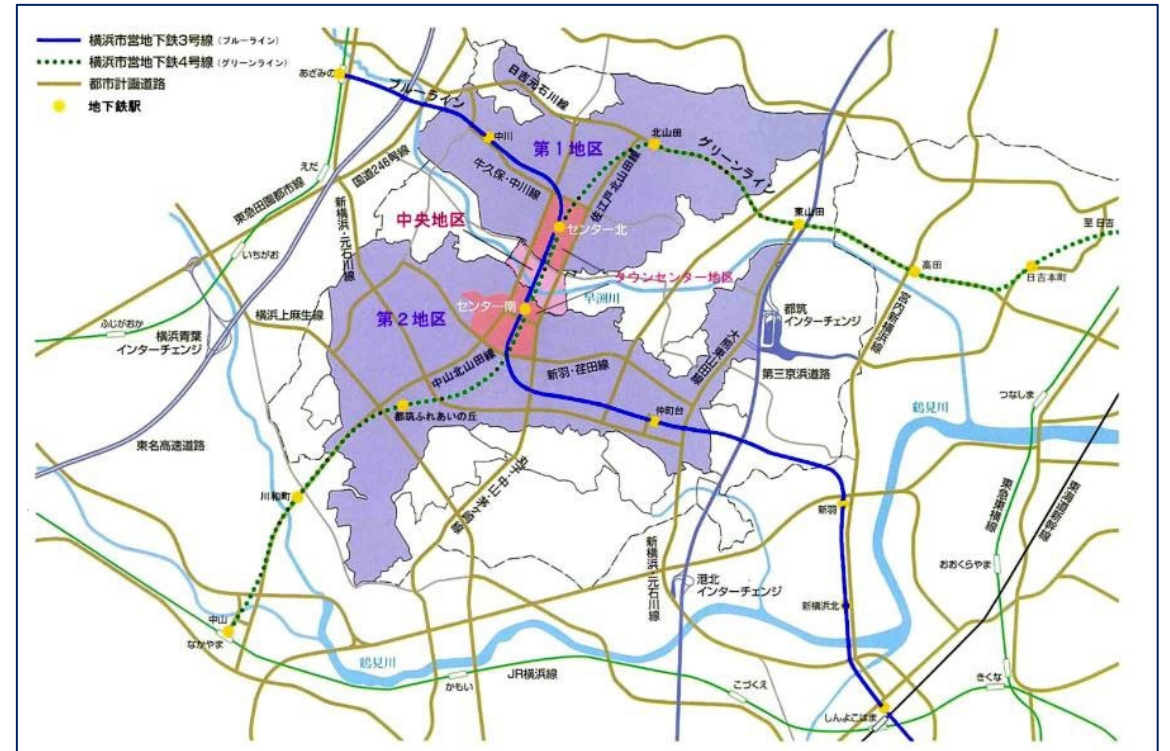
港北ニュータウン

横浜市



港北ニュータウンの紹介

- ・ 港北ニュータウンは、1965年に横浜市六大事業の一つとして計画された大規模ニュータウンです。「緑の自然環境を最大限に保存するまちづくり」等を基本方針に掲げ、都筑区を中心に良好な住環境を形成してきました。
- ・ 区画整理事業施行面積が約1,341haで、人口約16万人が生活。横浜市営地下鉄2路線が整備。
- ・ 区画整理後における土地利用の希望結果に基づき換地設計に反映する「申出換地方式」を全国に先駆けて採用。



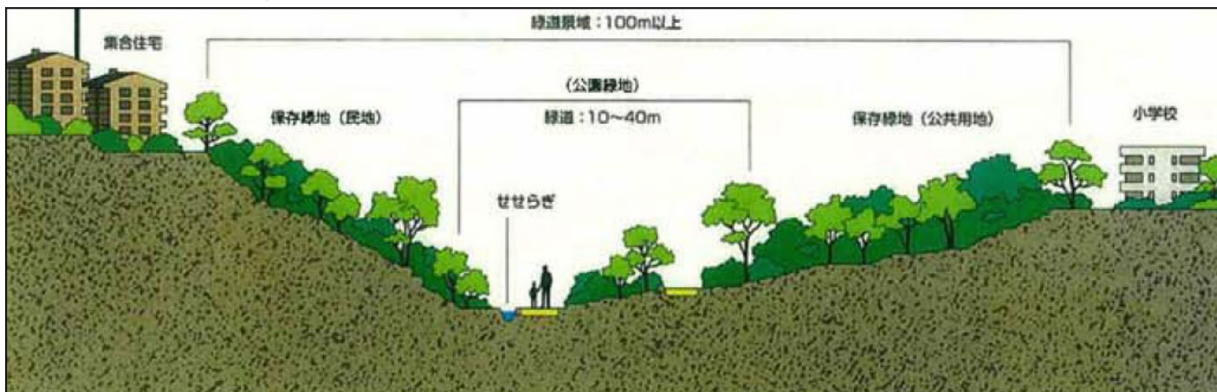
港北ニュータウンの概要

総面積 : 約2,530ha (区画整理事業施行面積: 約1,341ha)
人口 : 約16万人 (区画整理事業区域内 令和2年時点)
事業手法 : 土地区画整理事業 (申出換地方式)
特徴 : 住民参加、タウンセンター方式、グリーンマトリックス

経緯 : 昭和40年 市6大事業のひとつとして発表
昭和44年 第一、第二地区土地区画整理事業区域都市計画決定
平成8年 第一、第二地区換地処分公告
平成17年 中央地区換地処分公告

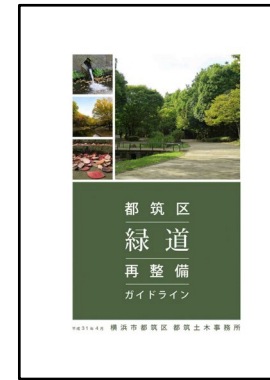
グリーンマトリックスシステム

地区内の緑道を骨格として、公園、せせらぎ、歴史資産、民有地の斜面樹林等をネットワーク化したオープンスペース計画です。約90haの緑資源を保全し、総延長約15kmの緑道で結んでいます。



近年の取組～緑道の再整備～

緑道再整備ガイドライン策定



- 生活動線としての利用強度に基づくゾーニングを行った上で、それぞれの整備水準の考え方を提示
- 再整備の流れで重視すべき点として、①設計思想の研究と理解、②現状の再評価、③技術的な工夫、④市民協働による合意形成プロセスの確立という4点を提示

利用強度のゾーニングごとの整備水準の考え方



土舗装



広がりのある樹林



素掘りのせせらぎ



石畳と小舗石造りのせせらぎ



脱色アスファルト舗装



見通しに配慮した植栽管理



・青の区間（利用強度弱）は、整備時のねらいと利用の実態に近い区間のため、既存施設の再利用や改修によって機能回復や課題解決を図る。また、広がりのある樹林地や湿地などの占める割合が大きい区間でもあり、特に生物多様性の保全のための維持管理が求められる。

・赤の区間（利用強度強）は、通勤通学や買い物で駅へ向かう利用者が集中する区間。自転車推奨ルートとも重複する箇所が多いため園路の拡幅や段差の少ない舗装、見通しの確保等により円滑な交通を確保する必要がある。緑道本来の魅力を損なわないような配慮も必要。